

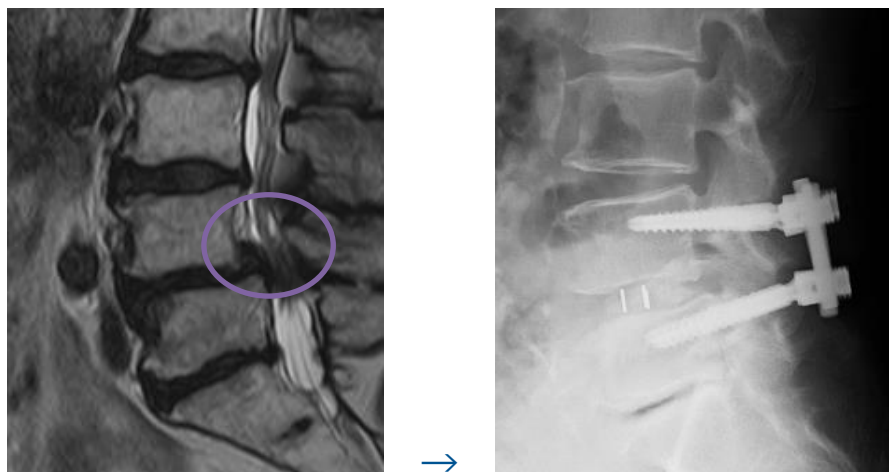
脊椎外科

首、背中、腰の痛みや、手足のしびれ、痛み、脱力、歩行障害は背骨の異常から起こることが多く、椎間板ヘルニアや椎間板症、脊柱管狭窄症、変形性脊椎症などの変性疾患や、黄色靭帯骨化症、後縦靭帯骨化症などの（国が定めた難病である）特定疾患、脊椎骨粗鬆症による圧迫骨折等のあらゆる脊椎疾患を、症状や患者さん個人の状態に応じた治療が可能です。外来での診察と検査（X線、MRI、CTなど）で的確に診断し、投薬、コルセット固定、各種ブロック注射、手術治療などの適切な治療方針を提案致します。高齢患者さんの脊椎圧迫骨折後偽関節に対しての経皮椎体形成術（PVP）や、脊椎に対して低侵襲といわれる側方進入手術（LIF）も導入しています。

ケース1：脊椎圧迫骨折に対して、バルーンカイフォプラスティ（BKP）施行。脊椎椎体内の空洞にセメントを入れ安定化。疼痛は改善し、骨粗鬆症治療の継続を行う。



ケース2：腰椎すべり症に対して、脊椎後方除圧椎体間固定術施行。腰痛、下肢の疼痛は改善している。



ケース3：脊椎のアライメント不良に対して、脊椎側方および後方固定術施行。脊椎のアライメントは劇的に改善し、腰痛、下肢の疼痛は軽減している。

